

Ⅶ 令和7年度理工科系大学等への推薦入学等による進学状況調査結果について

公益社団法人 全国工業高等学校長協会 附属工業教育研究所

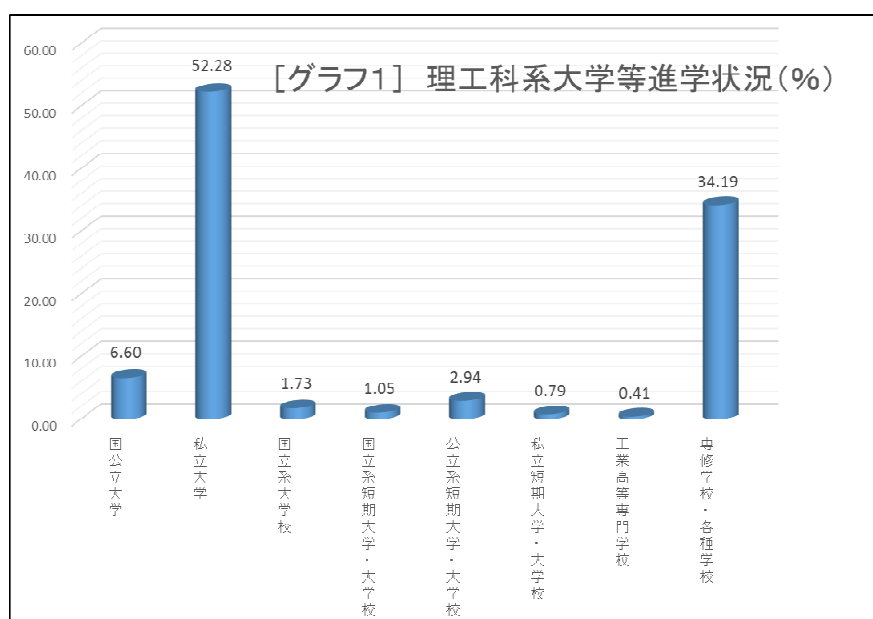
1 調査結果について

令和7年度は、工業系高等学校より理工科系国公立大学へ684人が進学（昨年度687人）している。そのうち、国立大学進学者は53大学484人（昨年度480人）、公立大学進学者は31大学200人（昨年度207人）であり、昨年度と比較すると合格者は国立大学で4人増、公立大学で7人減であった。一方、不合格者については昨年度より6人増加し、310人（昨年度304人）と昨年度並みとなった。国立大学で合格者が多かった大学は、新潟大学の29人を筆頭に、室蘭工業大学、長岡技術大学、大分大学25人と続き、地方の国立大学が多かった。

理工科系私立大学進学者は200以上の大学に5,417人となり、前年度より667人減少した。また、職業能力開発大学校（全国10地区に11校設置）への進学者は179人（昨年度182人）で昨年度並みでとなった。工業系高等学校から4年次に編入することにより、卒業後4年制大学に編入可能である工業高等専門学校等への進学者は、43人（昨年度49人）であった。さらに、私立大学附属短期大学部等の理工科系短期大学への進学者は82人（昨年度140人）と大幅に減少、全国に12校設置されている職業能力開発短期大学校には109人（昨年度110人）、各都道府県立理工科系短期大学（校）等には305人（昨年度239人）が進学している。

今回の調査を前回の調査と比較検討したところ、今年度も大きな変動はなかったが、会員校生徒数が減少する中、進学者数が10,362人と昨年の11,345人に比べ983人減少した。

[グラフ1]は理工科系大学等への進学状況を示したものである。



2 国公立大学について

例年、工業系高等学校卒業生の4割弱が上級学校に進学しており、進学先である理工科系国公立大学等では、積極的に総合型選抜、専門学科枠推薦等で、工業系高等学校卒業生を受け入れている。国公立大学の学校推薦型選抜等の入試形態には、専門学科枠、総合学科枠、県内枠、地域枠等があり多岐にわたっている。多くの工業系高校生が、さまざまな受験方法を活用して受験にチャレンジしていること、また、国立大学が地元の工業高等学校等と積極的に連携を取りながら活動していることもあり、国公立大学への進学が以前より有利になってきている。さらに、大学側が総合型選抜や専門学科卒業生選抜を

積極的に設けるなど、フレキシブルな入試を実施していることにより、国公立大学を目指す生徒も増えてきている。しかし、今回の調査でも国公立大学受験者のうち、不合格になった生徒は昨年度より減少したものの、まだかなりの数にのぼっており、報告のあった不合格者数は310人（昨年304人）と受験者の約31.2%を占めている（総受験者数は昨年度に比べ4人増）。

国公立大学に挑戦する意欲ある生徒の合格者を増やすことは、工業高校のイメージアップにもつながると考えられることから、国公立大学の総合型選抜や専門学科卒業生選抜は増加傾向にあることも踏まえ、生徒には入学当初からの確な受験情報を知らせるとともに、学校現場での組織的な学力向上に向けた指導や工業系高等学校で学んできた知識や技術の成果、また、「課題研究」を通じた研究活動の成果をまとめあげ、プレゼンテーション力の育成等を図るなど、生徒への積極的なサポート体制により国公立大学進学への道を開くことが、受験者の増加と不合格者の減少につながっていくのではないかと考える。

3 私立大学等について

今回の調査では、進学者の52.3%が理工科系私立大学に進学しており、200以上の大学に5,417人（昨年6,084人）が進んでいる。理工科系私立大学では、積極的に工業系高等学校卒業生を受け入れており、金沢工業大学の359人を筆頭に、日本大学306人、大阪電気通信大学253人、愛知工業大学249人、日本工業大学219人等、12大学にそれぞれ100人以上が進学している。

4 おわりに

最近の大学入試の傾向は、私立大学の入学定員は減少傾向にあるものの、全体の受験者数は増加、一部有名私立大学では競争が激化している。また、入試形態の総合型選抜・学校推薦型選抜の比率が増加し、一般選抜の比重が文部科学省の調査からも減少傾向にあることがわかる。大学ごとの入試方式の変更も多いことから、情報収集の重要性が増しており、入念な志望校研究が必須である。

〔表1〕は、平成12年度（AO入試実施開始年度）と令和7年度の大学入学者選抜実施状況を比較したものである。この表からは、AO入試の割合が平成12年度では国公立大学を合わせても1.4%であったが、令和7年度には総合型選抜の割合が19.5%に増加しており、一般選抜の割合が大きく減少している。

〔表1〕平成12年度と令和7年度の4年制大学入試状況の比較（文部科学省のHPより抜粋）

平成12年度		令和7年度	
AO入試	1.4%(8,117人)	総合型選抜	19.5%(126,766人)
推薦入試	31.7%(188,083人)	学校推薦型選抜	34.2%(221,415人)
一般入試	65.8%(389,851人)	一般選抜	46.3%(300,249人)
その他	1.1%(6,827人)	その他	—
入学者計	592,878人	入学者計	648,430人

（注）その他は、専門学科卒業生選抜、社会人選抜、帰国生徒選抜、その他選抜など

〔表2〕令和7年度の大学入学者選抜実施状況（文部科学省のHPより抜粋）

国立大学		公立大学		私立大学	
総合型選抜	7.7% (7,714人)	総合型選抜	6.0% (2,183人)	総合型選抜	22.8% (116,869人)
学校推薦型選抜	12.7% (12,706人)	学校推薦型選抜	26.9% (9,732人)	学校推薦型選抜	38.8% (198,977人)
一般選抜	79.6% (79,542人)	一般選抜	67.1% (24,321人)	一般選抜	38.3% (196,386人)
入学者計	99,962人	入学者計	36,236人	入学者計	512,232人

〔表2〕は、令和7年度の大学入学者選抜実施状況を、入学者選抜ごとに国立大学、公立大学、私立大学別にまとめたものである。それぞれの入学者については、国立大学では総合型選抜7.7%、学校推薦型

選抜 12.7%、一般選抜が 79.6%、さらに公立大学では総合型選抜 6.0%、学校推薦型選抜 26.9%、一般選抜が 67.1%となっており、国公立大学では一般選抜が主であること、また、私立大学においては定員の半数以上を総合型選抜と学校推薦型選抜により入学させていることがわかる。

今回の調査は、541 校から回答をいただき、回答率は 92.8%（昨年 93.3%）であった。調査結果を通して、工業系高等学校からの理工系大学等への推薦入学等による進学状況に関する具体的な実情を把握することができた。

なお、〔表 3〕は理工科系大学等への進学状況調査結果、〔表 4〕は理工科系大学推薦別合格者数、〔表 5〕は理工科系大学推薦入試不合格者数、〔表 6〕は国公立大学合格者数である。また、〔グラフ 2〕から〔グラフ 10〕は、理工科系大学等の合格者数の一部を校種別に示したものであり、〔グラフ 11〕から〔グラフ 13〕は、それぞれ都道府県別、ブロック別、高等学校別の国公立大学合格者数を示したものである。

今後も、この「理工科系大学等への推薦入学等による進学状況調査」を継続し、多くの学校からの資料提供により、正確な情報を全国に発信していく予定である。お忙しい中、調査にご協力いただいたことに対し、関係の先生方に厚く御礼申し上げる。

〔表 3〕 理工科系大学等への進学状況調査結果(令和8年3月卒業生)(単位:人)

校 種	推薦・男	合格・男	推薦・女	合格・女	推薦・合計	推薦・合格
国立大学	594	411	95	73	688	484
公立大学	249	170	57	30	306	200
私立大学	5,186	4,763	708	657	5,891	5,417
国立系大学校	172	168	12	11	184	179
国立系短期大学校	107	102	6	6	113	109
公立系短期大学・大学校	288	277	32	28	320	305
私立短期大学・大学校	79	77	6	5	85	82
工業高等専門学校	42	40	3	3	45	43
専修学校・各種学校	3,195	3,123	416	420	3,611	3,543
合 計	9,912	9,131	1,335	1,233	11,243	10,362

〔表 4〕 理工科系大学推薦別合格者数(人)

項目別推薦	国立大学	公立大学	私立大学	合 計
総合型選抜(AO入試)	220	69	1,182	1,471
指定校推薦	0	11	3,351	3,362
公募推薦	79	63	381	523
一般推薦	20	7	36	63
スポーツ推薦	0	0	90	90
専門学科枠推薦	156	44	218	418
地域枠推薦	3	3	5	11
その他	6	3	154	163
合 計	484	200	5,417	6,101

〔表 5〕 理工科系大学推薦入試不合格者数(人)

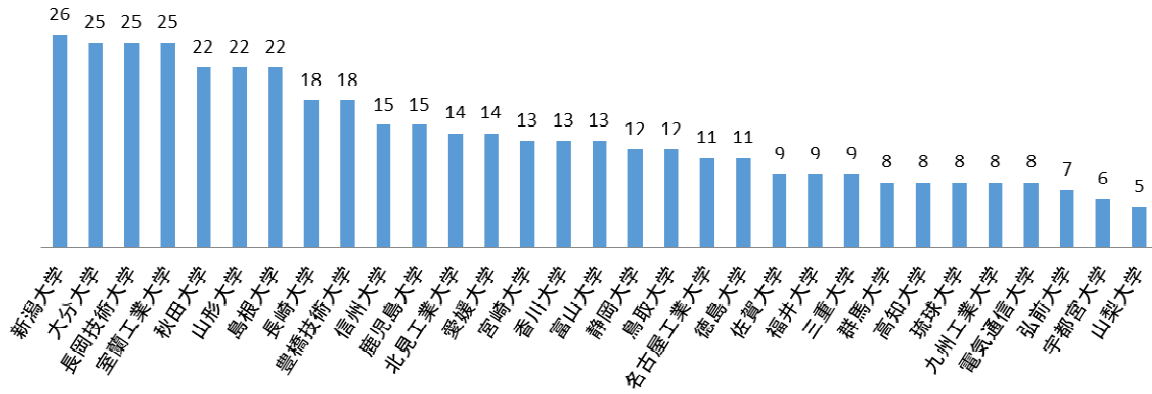
卒業年	国立大学	公立大学	私立大学	合計
令和2年3月卒業生	257	175	811	1,243
令和3年3月卒業生	230	166	687	1,083
令和4年3月卒業生	227	151	499	877
令和5年3月卒業生	244	119	502	865
令和6年3月卒業生	270	150	442	862
令和7年3月卒業生	216	88	420	724
令和8年3月卒業生	204	106	474	784

〔表6〕 令和7年度 国公立大学合格者数(人)【令和8年3月卒業生調査】

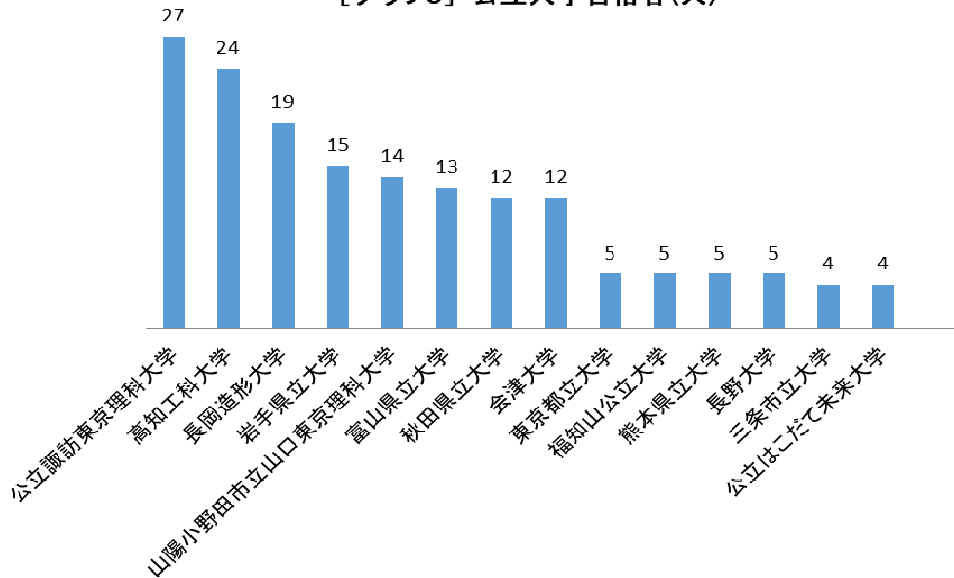
番号	都道府県	国立大学	公立大学	合計	ブロック別計
1	北海道	22	7	29	29 (23)
2	青森県	9	4	13	102 (124)
3	岩手県	3	3	6	
4	宮城県	13	1	14	
5	秋田県	20	12	32	
6	山形県	14	10	24	
7	福島県	7	6	13	
8	茨城県	7	2	9	
9	栃木県	4	0	4	
10	群馬県	4	0	4	
11	埼玉県	3	1	4	
12	千葉県	0	0	0	
13	東京都	23	7	30	
14	神奈川県	0	0	0	
15	山梨県	1	1	2	
16	新潟県	31	6	37	119 (82)
17	長野県	12	30	42	
18	富山県	10	18	28	
19	石川県	8	1	9	
20	福井県	3	0	3	
21	静岡県	36	9	45	84 (91)
22	愛知県	27	3	30	
23	岐阜県	5	0	5	
24	三重県	4	0	4	
25	滋賀県	2	0	2	33 (31)
26	京都府	6	3	9	
27	大阪府	4	2	6	
28	兵庫県	10	5	15	
29	奈良県	1	0	1	
30	和歌山県	0	0	0	
31	鳥取県	7	1	8	48 (59)
32	島根県	9	0	9	
33	岡山県	9	9	18	
34	広島県	0	1	1	
35	山口県	2	10	12	
36	徳島県	37	8	45	96 (95)
37	香川県	7	7	14	
38	愛媛県	11	2	13	
39	高知県	8	16	24	
40	福岡県	17	0	17	120 (117)
41	佐賀県	1	0	1	
42	長崎県	15	2	17	
43	熊本県	13	6	19	
44	大分県	6	1	7	
45	宮崎県	26	3	29	
46	鹿児島県	17	1	18	
47	沖縄県	10	2	12	
合計		484 (480)	200 (207)	684 (687)	684 (687)

※()内は、前年同期の状況である。

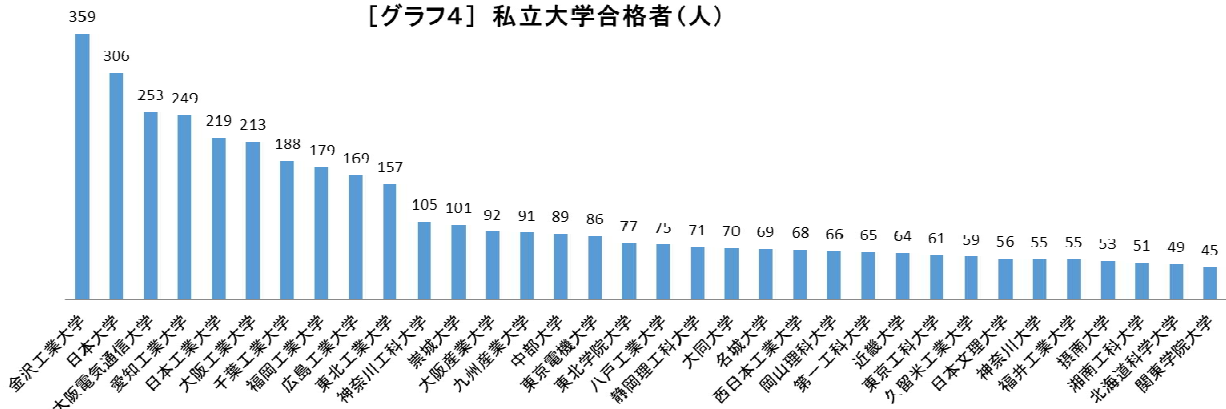
[グラフ2] 国立大学合格者(人)



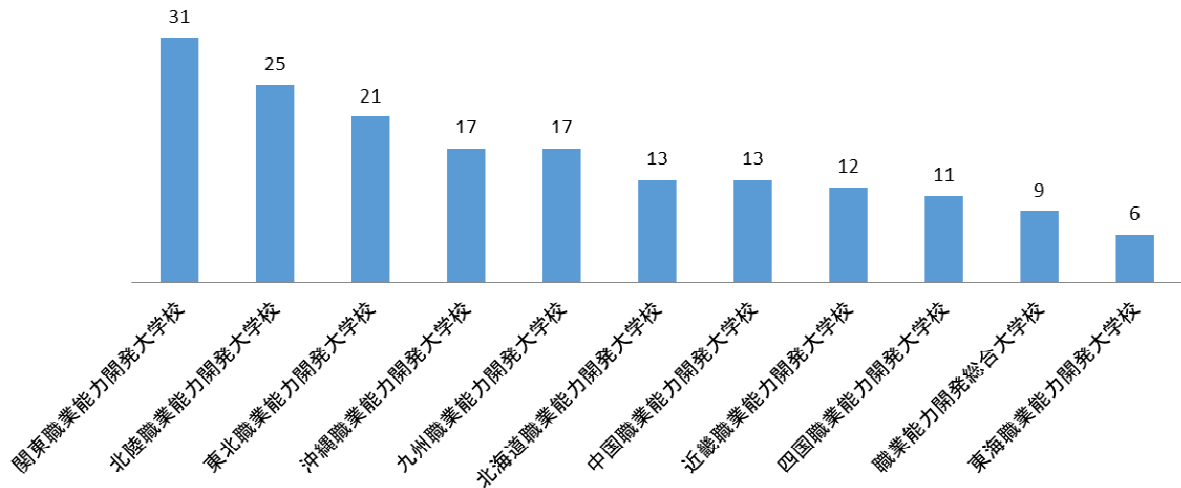
[グラフ3] 公立大学合格者(人)



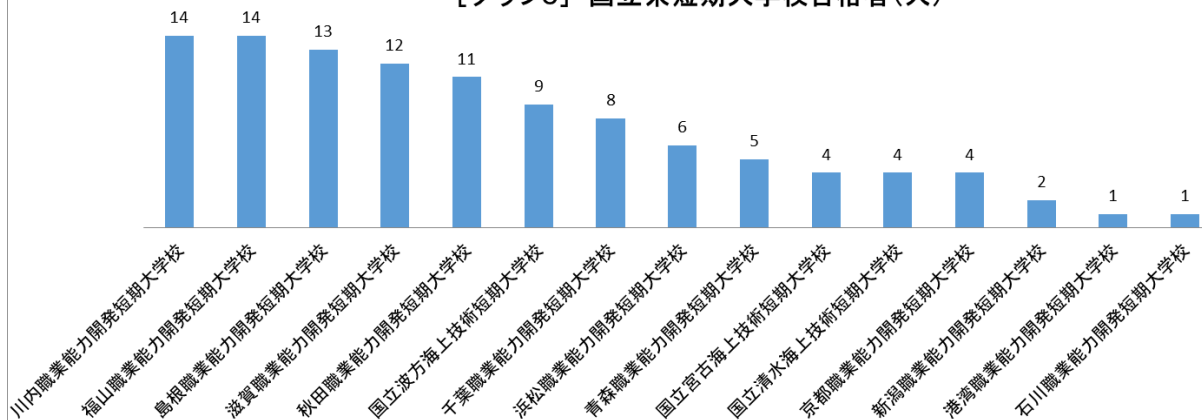
[グラフ4] 私立大学合格者(人)



[グラフ5] 国立系大学校合格者(人)



[グラフ6] 国立系短期大学校合格者(人)



[グラフ7] 公立系短期大学校合格者(人)

